

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年8月18日 (2011.8.18)

【公表番号】特表2010-535923(P2010-535923A)

【公表日】平成22年11月25日 (2010.11.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-047

【出願番号】特願2010-520548(P2010-520548)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/10 (2006.01)

C 0 9 J 201/10 (2006.01)

C 0 9 J 167/00 (2006.01)

C 0 9 J 133/26 (2006.01)

C 0 9 J 133/06 (2006.01)

C 0 9 J 161/04 (2006.01)

C 0 9 J 171/00 (2006.01)

C 0 9 J 177/00 (2006.01)

C 0 9 J 169/00 (2006.01)

C 0 9 J 175/04 (2006.01)

C 0 9 J 183/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 101/10

C 0 9 J 201/10

C 0 9 J 167/00

C 0 9 J 133/26

C 0 9 J 133/06

C 0 9 J 161/04

C 0 9 J 171/00

C 0 9 J 177/00

C 0 9 J 169/00

C 0 9 J 175/04

C 0 9 J 183/04

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月29日 (2010.6.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記の成分 a ) および / または成分 b ) を含有する硬化性組成物 :

a ) 下記式 ( I ) および ( II ) で表される少なくとも 2 個の末端基を有するポリマー P、

- A<sub>m</sub> - K<sup>1</sup> - Si R<sup>1</sup> X Y ( I )

- A<sub>m</sub> - K<sup>2</sup> - Si R<sup>2</sup> X Y ( II )

および / または、

b ) 2 種のポリマー P<sub>1</sub> と P<sub>2</sub> , ポリマー P<sub>1</sub> は下記式 ( I ) で表される末端基を有する :

- A<sub>m</sub> - K<sup>1</sup> - Si R<sup>1</sup> X Y ( I )

およびポリマー  $P_2$  は下記式 (II) で表される末端基を有する：



[ 式中、A は 2 価の結合基を示し、

$K^1$  および  $K^2$  は、それぞれ独立して、主鎖が 1 ～ 6 の炭素原子を有する 2 価の脂肪族炭化水素基を示し、 $K^1$  および  $K^2$  の炭化水素基は異なり、

X および Y は、それぞれ独立して、ヒドロキシ基または加水分解性基を示し、

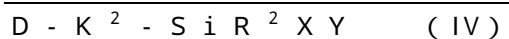
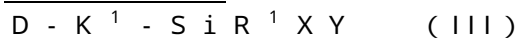
$R^1$ 、 $R^2$  は、それぞれ独立して、1 ～ 20 の炭素原子を有する炭化水素残基を示し、m は 0 または 1 の値を示す。 ]。

#### 【請求項 2】

硬化性組成物の製造方法であって、該方法においては、

a) 少なくとも 2 種の末端官能基 C を有するポリマー骨格を有するポリマー  $P'$ ；

b) C と反応性を有し、下記一般式 (III) および (IV) で表される、官能基 D を有する 2 種の化合物；

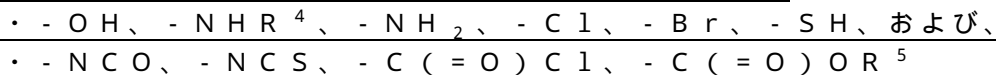


をお互いに反応させるものであって、

上記反応において、物質 (III) および (IV) が同時にポリマー  $P'$  に添加されるか、または、まず化合物 (IV)、次いで、短い時間間隔で化合物 (III) がポリマー  $P'$  に添加される、

硬化性組成物の製造方法

[ ただし、C および D は下記群のうち 1 つから選択され、



C と D は、同一の群に属さず、

式中、 $K^1$ 、 $K^2$  は、それぞれ独立して、1 ～ 6 の炭素原子の主鎖を有する 2 価の脂肪族炭化水素基を示し、炭化水素基  $K^1$ 、 $K^2$  は異なり、

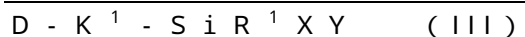
X、Y は、それぞれ独立して、ヒドロキシ基または加水分解性基を示し、

$R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^4$ 、 $R^5$  は、それぞれ独立して、1 ～ 20 の炭素原子を有する炭化水素残基を示す。 ]。

#### 【請求項 3】

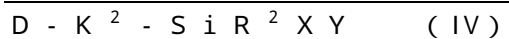
硬化性組成物の製造方法であって、該方法においては、

a) まず、少なくとも 2 個の末端官能基 C を有するポリマー骨格を有するポリマー  $P'$  を、下記式 (III) で表される化合物と反応させ；



それとは別に、

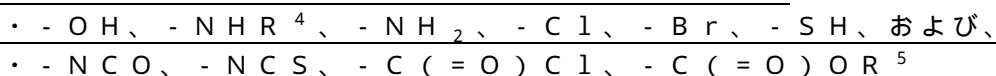
b) 少なくとも 2 個の末端官能基 C を有するポリマー骨格を有するポリマー  $P''$  を、下記式 (IV) で表される化合物と反応させ；



c) 次に、前記工程 a) および前記工程 b) の反応生成物をお互い混合させる、

硬化性組成物の製造方法

[ ただし、C および D は下記群のうち 1 つから選択され、



C および D は、同一の群に属さず、

式中、 $K^1$ 、 $K^2$  は、それぞれ独立して、1 ～ 6 の炭素原子の主鎖を有する 2 価の脂肪族炭化水素基を示し、炭化水素基  $K^1$ 、 $K^2$  は異なり、

X、Y は、それぞれ独立して、ヒドロキシ基または加水分解性基を示し、

$R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^4$ 、 $R^5$  は、それぞれ独立して、1 ～ 20 の炭素原子を有する炭化水素残基を示す。 ]。

#### 【請求項 4】

請求項 2 または 3 に記載の方法によって製造可能な組成物。

【請求項 5】

請求項 1 または請求項 4 に記載の組成物を含有する配合物。